



飾大だより

第150号

発行所
天理教飾大分教会
大阪市西区靱本町
1丁目18番12号
TEL06-6441-0197
FAX06-6446-1913

来年は教祖百二十年祭

三年千日の年祭活動といわれて、残りいよいよ八ヶ月、最終局面を迎えるまでになりました。

年祭の年には多くの人がおぢばに帰ってくるように、賑やかになるようにと打ち出していただいています。

それを受けて飾東大教会では、教祖百二十年祭の年には、飾東で五万人の帰参者を目指し、各教会ごと、各行事ことで仕切って帰らせていただくという運びになりました。

春・秋の「飾東三千人別席団参」しかり「よふぼく成人のつどい」の大教会行事にしてもおぢばで開催し、「こどもおぢばがえり」学生徒修養会など本部行事にも積極的に取り組んでいく。また、おぢばには飾東の教会がどこかが代表で日参させていただくということで、教会日々団参を打ち出していただきました。

また各系統として、飾磨ブロックでの団参も計画しています。

一 来年の団参日

- 飾大 : 3/15 ◆ 7/7 ◆ 11/29
- 飾本 : 3/26 ◆ (関東教会) 12/26
- 飾芦 : 4/1 ◆ 7/8 ◆ 12/14
- 飾扇 : 4/10 ◆ 7/3
- 東生駒 : 4/3 ◆ 7/10
- 久楽 : 3/31 ◆ 7/11
- 飾大豊原:(海外教会) 4/18 ◆ 4/26 ◆ 10/26
- 飾東全体: 1/26 ◆ 5/28 ◆ 6/25 ◆ 11/25・26
- 飾磨団参: 4/2(1200人)

真柱様は教祖年祭を喜んで迎えさせてもらうのか、ただその日が来たから勤めるのか。今年の動きいかによって、迎え方が変わってくるのだと聞かせていただきませう。

競馬でも最後の最後で外から回ってラストスパートで駆け抜け、一位になる馬もいます。残りラストスパートをかけてたすけ心の涵養と実践の中で、一人でも多くの方をお連れ帰らせていただき、親神様・教祖に喜んでいただくようつとめきらせていただきます。

《真実の道について》⑥

《にをいかけ、おたすけ雑感》

去る四月二十四日、飾大分教会二代
会長竹川としゑの二十年祭をつとめさ
せていただいたが、多数の御参拝を頂
き、結構につとめさせていただく事が
できて、まことにありがたいございま
した。

御参拝いただいた記念に「二代会長
を偲ぶ“結構でんな お道は”とい
う小冊子をお渡しさせていただいたと
思うが、その中で二代会長の晩年の約
十四年間「天理よろづ相談所病院」(憩
の家)の事情部講師として、病院に入院
中の患者さんにおたすけをされた話が
記されている。

難しい病気の方々をはじめ、いろい
ろな人におたすけされているが、その
病人さんの枕元へ座ると、自然とお話
が浮かんできてお取り次ぎさせていた
だいたという事であった。
この話を手掛かりに、お道のおたす
け、あるいは、にをいかけについて述
べてみたい。

《どんな話をすればよいか》

にをいかけ、おたすけをさせていた
だくの、相手方にどんな態度で接す
ればよいか。またどんな話をすれば
よいか。先ずこの点が不安であり自
信がないという人が多いのではないだ
ろうか。

二代会長のよう病人さんの前に座
れば、自然と話が浮かんできると、
そんな楽なおたすけをしたいと思うか
もしれない。

にをいかけにしろ、おたすけにしろ、
真実のところ、それはをや(親神様・
教祖)がしてくださるのである。私た
ち用木はその手足となつてつとめさせ
ていただくというのが理の上からの事
柄である。用木は「教祖の道具衆」と
言われるゆえんである。また、実際に



飾大分教会
前会長 竹川俊治

をやに働いて頂かなければ、人間が人
間を助けることができないという事を
しっかり肚に据えて、いかにしてをや
に働いて頂くか、という事に心を注ぎ、
努力したいものである。

実際に、にをいかけ、おたすけをす
る(実動する)のは、用木である。その
用木が実動しなければ、をやは働きよ
うがない、働きたくても働けない、「道
がのうては出るにでられん」と仰せに
なっているし、また用木が実動する事

によつて、にをいかけ、おたすけの喜
びや有り難さを、用木自身に味あわせて
下さるのである。

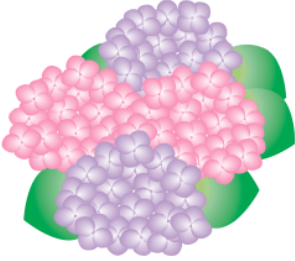
《手引き書?》

さて、にをいかけに行き、相手にど
んな話をさせていたどうか。最初か
ら自然に浮かんできてくると、とても
考えられるものではないだろう。その
ために、何か手引き書、にをいかけの
マニュアルが欲しいと思うのも無理か
らぬことであるが、私はそのようなマ
ニュアルは、かえつて有害であると思
っている。

例えば、どうしてもこの人にをい
かけをしたと思えば、どんな方法手
段を使つても相手に話しかけたいと
いう意欲を持つということが必要であ
る。こう言わなければならぬという
事は一切ないのである。

それこそ体当たりして、お天気の話
であろうが健康の話であろうが、相手
の様子を見て、どんな話題からでも相
手に食い込むという意欲を燃やすこと
である。

そして、いろいろ
な話をしながらも、
こちらからお道の信
仰について話をす
る機会をねらつていく
わけである。
教祖の逸話遍にも
あるように、自分の



助かった話、信仰の喜びや有り難さを相手方に伝えられるようにつとめればよいのである。

二代会長のように自然に話が浮かんでくると言っているが、何としても助かってもらいたい、にをいがけをしたいという意欲は内に秘め、表面上はこやかやさしい表情をしながら相手に語りかけていく事が大事なのではないだろうか。相手に警戒心を持たせては、心を開いて話を聞き入れようとはしないからだ。

“この人になをいがけをしたい”と思つたならば、どこからでも相手に食いつくすという意欲を持つこと。話ができるようになれば、そこは臨機応変、相手との対話を進行させ、信仰をすすめる話をしていかねばならない。

こつこつ積み上げる

私も数々の経験から、即刻、初対面の人に修養科をすすめる事もあれば、何ヶ月もかかって別席の話をしようになつた人もいる。考えるまでもなく、十人寄れば十色、人それぞれ癖もあれば性格も違う。にをいがけの方法手段も百人寄れば百人みなそれぞれ自分なりの方法を見いだせばよいのであって、それを見いだすまでは、やはりにをいがけの回数回数を積み上げることによって、自分自身のマニュアルが見いだせるのではないだろうか。

をやがおはたらき下されるようになる

れば、をやは「相手にものを言わせてみせる。神の自由」という言葉もあるように、「日々常々神様や教祖やと言うて、神のさしずを堅々に守つて通れば」という事であろう。病人さんの前に座つたら、お話が自然と浮かんできて、それを取り次ぐと助かつて下さる、というの、神の自由用の現れであろう。

こつこつ積み上げていきたいものである。そして、私たちは、どこまでをやを固く信じて通るか、ということが極めて大切な要素となる。「心一つ」ということであろう。

先輩の通り方

郡山大教会初代会長平野楯蔵先生は、道一条になつて毎日おたすけに廻られたが、おさずけを取り次がれても次々に直しされ、迎いとつてもらうためには平野さんに頼め、とまで言われて通つた方であつた。けれども平野先生夫婦は心倒さず、固く教祖を信じてお通りになられたのである。そして、何十人目かのおたすけで、初めてたすかつてくださった方から道が伸び広がつたという事である。

教祖の逸話篇の中で「そんな中、よろこんで通つていたな。その心受けとつたで」と、教祖が仰せになつていたのである。教祖は平野先生御夫婦をためしにかけておられたのではないかと

思われる。どこまでをやを信じて通るか、という事である。用木はすべて、をやにお働き頂けるように、こつこつと理を積み上げていく事を心がけ、不足を思わず、たんのうして常々からにをいがけ、おたすけにつとめさせていただきたいと思う。

にをいがけやおたすけに、どんな方法がいいのか、どんな話の内容がよいのか、といった枝葉末節の事柄にとらわれず、何としてもにをいかけたいという意欲、執念、やる気を持つことが大事であり、その他の事はそれほど重要な事ではないと自覚して実行したものである。

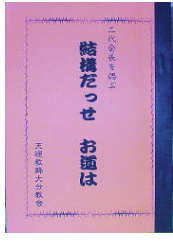
もしも、あと三ヶ月しか自分の命はないと医者に宣告されたら、どんなやり方でにをいがけをしたらよいのか、と呑気な事はいつておられない。たとえ、はいずり廻つても手当たり次第に体当たりしてにをいがけをするではないか、と私は自分の経験を「みちのとも」に書かせていただいたことがある。



二代会長二十年祭つとめられる

天理教飾大分教会二代会長 並東生駒分教会初代会長 竹川としる 二十年祭祭文

四月二十四日、飾大分教会の二代会長として二十年祭つとめられた。また、『結構だつせお道は』も配られた。



この教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます天理教飾大分教会二代会長並びに東生駒分教会初代会長竹川としるの霊様の御前に、天理教飾磨分教会長本庄理人慎んで申し上げます。霊様には明治の三十年父大見豊松様、母きぬ様の次女としてお生まれになられ、幼少の頃より父母に手引かれ、信仰の道に歩まれておられましたが、十八歳の時に御両親の勧めに従い、当時大阪の地で単独布教であられた竹川萬次様とご結婚なさいました。以来教祖のひながたを胸に夫婦力を合わせ、たすけ一条の上になされた御苦労をなされる中、次第に道を慕うものも増えまし、大正の十二年十二月二十一日に大阪市港区市場通り一丁目九番地に飾大宣教所を設立、夫会長様をたすけ、日夜おたすけに飾大暮れおられたことと存じます。その後昭和の二十年三月には戦時中により空襲を受け、空襲や疎開により散り散りになっていた信者の丹精にと苦しい道中を励まし合いながら歩まれ、その真実により二十年五月には港区市場通り二丁目八番地に教会移転の御守護を頂かれましたことを思案致しますと、如何なる困難な中にも心倒されることがなく、真つ直ぐに歩まれ、霊様のこの道に對する不動の信念がうかがえ、その力強い信仰信念が、今なおこの教会に連絡と引き継がれております所を見せたいでございますと、そうした霊様の歩まれた道の賜と存じ上げます。また翌二十三年の二月には夫様のお出直しという節をも見せられました。同五月には二代会長の理のお許しを戴かれ、生前の前会長の思いを胸に、念願の大阪市の中心地である、只今の土地を購入され、直ちに神殿建築をなされ、その道中にも飾磨分教会を設立、飾大分教会を設立、二十五年四月に飾磨分教会を設立、二十五年の十月二十四日に無事、移転建築奉告祭を執り行われました。正しくその勢いをも感じさせていたたく次第でございます。そして昭和の三十三年九月に会長を譲られて後も、その心留まることなく、たすけ一条に歩まれ昭和の四十三年十月には自らが会長として東生駒分教会を設立なされ、踏み行なわんことを心となされ、教え子を教え導き、お通りになられましたが、昭和の六十年五月二十六日、満

八十八才を息の限りとお出直しになられました。月日の小車は巡り巡り、今日は早二十年の昔を教える年となりましたので、教え子達事計り定めて今日のこの日に二十年祭を執り行わせていただきます。何卒一同の御生前のご丹精に心より御礼申し上げる様を御心安らかに受け取り下さいますようお願い申し上げます。

思えば霊様が第一線で活躍なされた当時は、戦前戦後の容易ならぬ時であったように存じます。その中をも教祖を慕い親神様の御守護にお縋りし歩まれた道を振り返りますと、私共も今日の結構な時代に甘んずることなく、親神様、教祖、おばを誠として、只今の教祖百二十年祭という時句を霊様に御安心いただけますよう歩ませていただく所存でございます。どうかこの上共に、この教会の上には申すまでもなく、教え子達、ゆかりある人々の上にもお見守り下さいまして、成人の道恙なく歩ませていただく程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

思えば霊様が第一線で活躍なされた当時は、戦前戦後の容易ならぬ時であったように存じます。その中をも教祖を慕い親神様の御守護にお縋りし歩まれた道を振り返りますと、私共も今日の結構な時代に甘んずることなく、親神様、教祖、おばを誠として、只今の教祖百二十年祭という時句を霊様に御安心いただけますよう歩ませていただく所存でございます。どうかこの上共に、この教会の上には申すまでもなく、教え子達、ゆかりある人々の上にもお見守り下さいまして、成人の道恙なく歩ませていただく程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。